

中学校第1学年 音楽科学習指導案

1 題材名 アーティキュレーションを生かして伝えよう

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、「聖者の行進」（リコーダー二重奏）を教材として、アーティキュレーションを生かしながら創意工夫し、表したい器楽表現で演奏する題材である。教材とする「聖者の行進」（リコーダー二重奏）は、2つの旋律がコール&レスポンスのような掛け合いで始まり、ユニゾン、2声のハーモニーへと展開する構成となっている。「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の2つの旋律を、スタッカート奏法、ポルタート奏法、レガート奏法の3種類の奏法で演奏することを通して、アーティキュレーションについて分かりやすく学ぶことができると考える。この教材を通して、アーティキュレーションと曲想との関わりを理解し、ペアによる器楽活動を行うことにより主体的・協働的な学習の展開が期待できる。

(2) 生徒観

本題材で学習するに当たって、「なぜ、音楽を学ぶのだろう」というアンケートを7月に実施した。「音楽の学習の中で、どの分野が得意ですか」という質問に対し、約50%の生徒が「鑑賞」と回答しており、「器楽」と回答した生徒は約12%であった。「これまでの音楽の学習の表現領域（器楽：アルトリコーダー）の中で、どのようなことができるようになりましたか」という質問に対しては、「運指」や「息継ぎ」と回答している生徒は100%であったが、「タンギング」と回答している生徒は約12%であった。この結果から、タンギングの習得が不十分であるため、アルトリコーダーの様々な音色や響きを味わいながら、創意工夫を生かした表現で演奏することにも課題を感じている生徒が多いことが分かった。この実態を踏まえ、アルトリコーダーを演奏するために必要な技能を習得するための学習活動を工夫し、生徒が表したい器楽表現で演奏できるようにする。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず、第1時で既習教材を用いてアルトリコーダーの演奏に必要な基礎となる技能を身に付けることができるようにする。その後、「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の特徴と構成を捉えることができるようにする。第2時では、スタッカート奏法、ポルタート奏法、レガート奏法の3種類の奏法による「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の演奏を聴き、アーティキュレーションによる曲想の変化について考えることができるようにする。また、3種類の奏法で「聖者の行進」（リコーダー二重奏）で演奏できるようにするために、1人1台端末に教師が演奏している参考動画を配付したり、3種類の奏法で演奏するために必要な技能のポイントや身体の使い方をワークシートに記入できるようにしたりする。第3時では、アルトリコーダーの音色や響き、アーティキュレーションを生かして、ペアで「聖者の行進」（リコーダー二重奏）をどのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。その際、中間発表を行う場を設定し、ペアで表したい「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の演奏になっているかについてほかのペアと互いに聴き合い、表したい器楽表現に必要な奏法に関するアドバイスを伝え合う。第4時では、ペアで「聖者の行進」（リコーダー二重奏）を演奏する発表会を設定する。このような学習を通して、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けるとともに、リコーダー二重奏を演奏する楽しさを実感することができるようにする。

3 題材の目標

- (1) アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) アルトリコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。
- (3) アーティキュレーションを生かして演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、アルトリコーダー二重奏に親しむ。

4 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>知 アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，アルトリコーダーの演奏で表している。</p>	<p>思 アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 アーティキュレーションを生かして演奏することに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材の指導と評価の計画（全4時間）

時	◆学習のねらい ○学習内容 ・学習活動	評価			評価方法
		知技	思	態	
1	<p>◆アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，アルトリコーダーの音色や奏法への関心をもつ。</p> <p>○既習教材を用いて，アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「喜びの歌」，「かっこう」の2曲を，アルトリコーダーの音色，旋律を確認しながらアルトリコーダーで演奏する。 <p>○題材全体を通しての学習の見通しをもつ。</p> <p>○「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の構成と2つの旋律を確認しながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コール&レスポンスのような掛け合い，ユニゾン，2声のハーモニーで構成されていることを確認する。 ・2つの旋律を意識しながら演奏する。 				
	<p>◆アルトリコーダーの3種類の奏法を生かして演奏しながら，音色や響きと奏法との関わりについて理解する。</p> <p>○アーティキュレーションによる曲想の変化に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカート奏法，ポルタート奏法，レガート奏法による「聖者の行進」（リコーダー二重奏）を聴き，アーティキュレーションによる曲想の変化についてワークシートに記入する。 <p>○アーティキュレーションによるアルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類の奏法を試奏する。 ・3種類の奏法を生かして演奏するために必要な技能のポイントや身体の使い方をワークシートに記入する。 	↓ 知			観察 ワークシート
3 (本時)	<p>◆アルトリコーダーの音色や響き，アーティキュレーションを生かして，「聖者の行進」（リコーダー二重奏）をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○表したい器楽表現について考え，イメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで「○○な聖者の行進」という曲名を考える。 <p>○どのように演奏するかについてペアで話し合い，思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティキュレーションを生かして，「○○な聖者の行進」をどのように演奏するかについてペアで話し合い，ワークシートに記入する。 ・中間発表でほかのペアと互いに聴き合い，奏法に関するアドバイスを伝え合う。 		↓ 思		観察 ワークシート
	<p>◆創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，アルトリコーダーの演奏で表し，そのよさを学級で共有するとともに，リコーダー二重奏の楽しさを実感する。</p> <p>○学級で発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫した点を発表し，互いの演奏のよさを伝え合う。 <p>○本題材の学習を振り返る。</p>	技		↓ 態	演奏 観察 ワークシート

6 本時の展開（3／4時間目）

(1) 本時の目標

アルトリコーダーの音色や響き，アーティキュレーションを生かして，「聖者の行進」（リコーダー二重奏）をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	形態	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入	○前時の学習を振り返る。 ・3種類の奏法で「聖者の行進」（リコーダー二重奏）の2つの旋律を演奏する。	斉	・前時のワークシートを確認しながら振り返ることができるようにする。 ・3種類の奏法の特徴を板書し，演奏するために必要なタンギングや息の使い方などを確認する。	
	○めあてを確認する。			
【めあて】アーティキュレーションを生かして，「〇〇な聖者の行進」を表そう。				
展開	○教師の演奏を聴く。 ・教師の演奏を聴いて，気付いたことや感じたことを発表する。	斉	・教師が創意工夫した「〇〇な聖者の行進」の演奏を基に，何をイメージして演奏したか「〇〇な」に入る言葉を考えるよう伝える。 ・生徒の発言を取り上げ，同じアーティキュレーションでも聴き手によって印象が変わることを実感することができるようにする。 ・教師が創意工夫して演奏した「〇〇な聖者の行進」の思いや意図について説明する。	
	・教師が創意工夫した点を知る。	ペア	・「〇〇な」の言葉の例を提示する。	■ 思 アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (観察，ワークシート)
	○表したい「聖者の行進」（リコーダー二重奏）を考え，イメージをもつ。 ・ペアで「〇〇な聖者の行進」という曲名を考える。		・大型提示装置に工夫した点の記入例を示す。	
	○どのように演奏するかについてペアで話し合い，思いや意図をもつ。 ・アーティキュレーションを生かして，「〇〇な聖者の行進」をどのように演奏するかについてペアで話し合い，ワークシートに記入する。		・アーティキュレーションと旋律を意識しながら創意工夫しているか机間指導を行う。	
	・3種類の奏法から適したものを選択する。		・アルトリコーダーで試奏しながら創意工夫するように促す。	
	・ペアでの演奏を1人1台端末の録音又は録画機能を活用し，自分たちが表したい「〇〇な聖者の行進」になっているか確認する。		・生徒の学習状況を把握し，アルトリコーダーの演奏について難しさを感じている場合には，ワークシートに示している「演奏するときのポイント」や1人1台端末に配付している3種類の奏法の参考動画を見るように声掛けを行う。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点をワークシートに記入する。 ・中間発表でほかのペアと互いに聴き合い、アドバイスシートを用いて、奏法に関するアドバイスを伝え合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・タンギング、息の量の調整など、3種類の奏法に必要な技能の習得に関わることについてアドバイスすることを伝える。 ・活動をする中で工夫した点が変わる場合は、試行錯誤の過程を残すために、見え消しをしてワークシートに黒色で記入するように伝える。 ・友達や教師からのアドバイスはワークシートに青色で記入するように伝える。
<p>まとめ</p>	<p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p>個 斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入するように伝える。 ・次回、発表会を行うことを伝える。